

(写し)

令和2年8月19日

水戸市長 高橋 靖 様

水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議
座長 佐川 泰弘

水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る事業の評価等について（意見）

当会議におきまして、令和元年度に実施した地方創生関連事業及び水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第1次）に位置付けた事業の1次評価について、慎重に審議いたしました。

それを踏まえ、今後の事業推進に当たっての意見を下記のように提出いたしますので、貴職におかれましては、本意見を十分に考慮し、総合戦略（第2次）を推進されるよう要望いたします。

記

1 地方創生関連事業（地方創生推進交付金事業、地方創生応援税制認定事業）について

- (1) 移住・定住については、成果が出にくい事業である。そのため、移住・定住につながる関係人口の創出に向けた施策にも取り組まれない。
- (2) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、テレワークや二拠点生活の機運が高まっている。この機を捉え、首都圏に近いという水戸市の長を生かしながら、移住者の呼び込みや企業のサテライトオフィス等の誘致に積極的に取り組まれない。
- (3) U I J ターン促進事業については、首都圏の大学のホームページに、茨城県や水戸市のホームページをリンクさせるなど、学生への情報発信の方法を工夫されたい。また、首都圏の大学における就職説明会や企業見学バスツアーについては、コロナ禍においても開催できるように実施方法を検討されたい。
- (4) 移住支援金制度については、全国の自治体で同様の取組を実施していることから、周知方法を工夫し、水戸市のセールスポイントをしっかりとPRされたい。

2 総合戦略（第1次）に位置付けた事業について

- (1) 障害者の雇用の促進に向けては、「勤労継続支援B型」の福祉サービスだけでなく、「勤労継続支援A型」（雇用契約あり）や一般就職を目指した支援に取り組まれない。
- (2) 若い世代へのキャリア支援の推進に向けては、市内や近隣の大学と連携し、学生の希望する就職先などの意識動向や、就職活動の方法などの行動様式を把握した上で、地元企業セミナーの開催方法を検討されたい。
- (3) 事業所のインターンシップ受入促進に当たっては、学生の在学期間及び年間のスケジュールを考慮しながら、効果的な情報発信をタイミング良く行うことで、受入れ企業とのマッチングを図られたい。
- (4) 仕事と子育ての両立に向けた就職応援セミナーについては、コロナ禍においてもセミナー参加者が託児サービスを利用できるように開催方法を検討されたい。
- (5) 都心から比較的近いという水戸市の地理的特性を生かして、公共交通の利便性が高い中心市街地の空き店舗を活用しテレワークの拠点を整備するなど、新たなひとの流れや新たなビジネスを生み出す施策を検討されたい。

- (6) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、人々の選択は、高層高密から低層低密へ、働く場所本位から暮らす場所本位へ移りつつある。従来型の計画の評価指標の多くは、「大きいこと」「多いこと」「集積していること」「密度が高いこと」をポジティブに評価してきたが、この際、こうした従来の価値観を転換し、どのような水戸にするのかを再考するチャンスとしていただきたい。